

I 県立図書館における読書活動の推進

1 本県の親子読書活動推進の経緯

(1) 「親と子が共に伸びる20分間読書運動」(昭和35年)について

出典:「鹿児島県立図書館史」より抜粋

本館が、県民の意識と教養の向上のために努力してきましたグループによる読書網の開拓では、図書利用グループ3,000の実績をあげながら、大衆運動とまでなり得ない悔みがありました。

特に最近の数年間、本館が最も力を注いで「考える農業」を提唱し、本県産業の振興を図るために推進してきました「農業文庫」は、大方の歓迎と実績を納めながら、なお幾多の問題点があり、読書に対する抵抗は意外に大きいようであります。

そこで本館では、この現状を打破するために、過去一年間の研究実績をもって、広く県下に「親子二十分読書運動」を展開し、これによって県内隈なく読書網の間隙をなくし、広く読書に対する関心と意欲を高め、親も子も読書の習慣を体得して、根強く生活の中に生かされるよう、あらゆる関係機関、団体等の協力によって、今後数年間継続的に主旨の徹底を計ろうとするものであります。

一、親子読書の在り方

毎日、子供が二十分ずつ本を読むのを親が聞くやり方で、三日間で一時間、一か月間では十時間、一年間には十五、六冊から二十四冊以上の本を読むことになります。

一、親と子の心の結びつき

- (1) 同じ主題を通じて、親と子が共に感動しあい、親と子の間に精神的な橋がかかる。
- (2) 毎日親と子が二十分間ずつ努力することによって、無言の教訓を子供に与える。

一、親の側への影響

- (1) 高学年の子供の読物からは広い知識を、低学年のものからは、童心がよみがえって精神生活を豊かにする。
- (2) 子供の学習に参加し、関心を高める。
- (3) 生活時間の自主設計への動機。

一、子供に及ぼす影響

- (1) 根気を養う。
- (2) 精神不安定児の治療。
- (3) 物事をなしとげる喜びと自信をつける。
- (4) 頭脳の鍛錬。
- (5) 精神的経験を豊かにする。
- (6) 理解力をつける。
- (7) 読書力をつける。
- (8) 偏読対策の一方法。

(2) 親と子が共に伸びる20分間読書運動の経過

○ 昭和35年から昭和40年まで

運動の啓蒙を図りながら、着実な実績を収める時期

- ・ モデル地区10地区を指定し、200冊を無料で貸付け配布
- ・ 研究調査報告書等を作成し、客観的に取組を分析

○ 昭和39年から昭和49年まで

運動の定着と発展を見せた時期

- ・ 幼児への読書啓蒙の必要性を提唱
- ・ 親子20分読書事例集の作成

○ 昭和50年以降

一層の深化・発展を遂げた時期

- ・ 親子読書研究誌「さぎなみ」の刊行、活動状況の調査の実施
- ・ 親子読書研究会の実施

(3) 1日20分読書運動へ 〈平成以降の取組〉

親子20分読書運動（昭和35年～）

豊かなまちづくり読書推進事業（平成元年～7年）

- ・ 地区親子読書巡回セミナー
- ・ 読書推進キャンペーン

心を育てる「本も友だち20分間運動」推進事業（平成8年～12年）

- ・ 読書シンポジウム
- ・ ポスターの作成・配布

乳幼児期からの読書活動の推進（平成13年～15年）

- ・ 「絵本ガイド」の作成・配布
- ・ 指導者育成の研修会

「広げよう深めよう『読み聞かせ』指導者研修会（平成16年～18年）

- ・ 父親も対象とした研修会

「自ら本に手を伸ばす子ども」育成事業（平成19年～21年）

- ・ 指導者を対象とした研修会

**かごしまっ子20分読書運動
「いつも身近に1冊の本を」（平成21年～25年）**

- ・ 読書活動推進委員養成講座
- ・ おやこ一冊読書
- ・ 地域の読書活動グループ活性化研修会

**「1日20分読書」運動
「いつも身近に1冊の本を」（平成26年～30年）**

- ・ 子ども読書活動推進スキルアップ研修会
- ・ 鹿児島県高校生ビブリオバトル大会

**「1日20分読書」運動
～心に残る1冊の本との出会い～（令和元年～5年）**

- ・ 鹿児島県高校生ビブリオバトル大会
- ・ 読書活動推進スキルアップ研修会

**「1日20分読書運動」
～本がひろく わたしの未来～（令和6年～10年）**

【「さざなみ」の変遷】

第1号(昭和45年創刊)

- 「文集」という形で刊行
- ・ 親子20分読書で読んだ本の感想
- ・ 親子20分読書の取組や感想
- ・ 運動普及のための資料等



第7号～

- 「親子読書研究誌」として刊行
- ・ 各地区で取り組まれた親子読書の実践記録
- ・ 活動発表の報告等



第40号

- 「国民読書年」、「親子20分読書」提唱50年という形で刊行
- ・ 「朝読み・夕読み」実践状況調査
- ・ 緑陰読書実施状況等の調査



鹿児島県子ども読書活動推進計画

- 第1次（H16年～H20年）
- 第2次（H21年～H25年）
- 第3次（H26年～H30年）
- 第4次（H31年～R5年）
- 第5次（R6年～R10年）

(4) これからの取組

第6代鹿児島県立図書館長 久保田彦穂（椋鳩十）氏が中心となって始まった「親子読書運動」は、時代とともに様々な変遷をたどりながら、現在まで脈々と続いています。時代は移り変わっても、読書を通じて心を育むという思いや願いは変わることなく、県内各地の公共図書館や学校において、蔵書の充実やおはなし会の実施、研修会の開催など、様々な活動が活発に行われています。今後も、親子読書をはじめとする読書活動の促進のために、各種機関との連携を図りながら優れた取組を紹介するとともに、研修会等の企画・運営・充実に努めていきます。